

令和6年3月31日

完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住 所 静岡県静岡市葵区追手町9番6号
管理機関（代表の機関）名 静岡県教育委員会
代表者名 教育長 池上 重弘

令和5年度マイスター・ハイスクール事業に係る完了報告書を、下記により提出します。

1 事業の実施期間

令和5年4月1日（契約締結日）～ 令和6年3月31日

2 管理機関

①管理機関（市区町村・都道府県）

ふりがな	はままつし
管理機関名	浜松市
代表者職名	市長
代表者職名	中野 祐介

②管理機関（産業界）※2団体以上ある場合は、適宜、欄を追加して記入してください。

ふりがな	やまははつどうきかぶしがいいしや
管理機関名	ヤマハ発動機株式会社
代表者職名	代表取締役社長
代表者氏名	日高 祥博

③管理機関（学校設置者）

ふりがな	しずおかけんきょういくいいんかい
管理機関名	静岡県教育委員会
代表者職名	教育長
代表者職名	池上 重弘

3 指定校名

学校名 静岡県立浜松城北工業高等学校
学校長名 寺田 弘隆

4 事業名 やらまいか精神を取り入れた浜松型デジタル人材の育成プロジェクト
～ 社会で活躍できるスペシャリストの育成 ～

5 事業概要

ヤマハ発動機、浜松市、静岡県教育委員会及び指定校の連携によって、地元企業が求める人材像を共有するとともに、人間性と専門性を備えたスペシャリストの育成を図る。

「第2期はままつ産業イノベーション構想」において、「ロボティクス」は7つの成長分野の一つに掲げられている。本事業では、ヤマハ発動機を中心として、（公財）浜松地域イノベーション推進機構と連携することで、ロボット産業で働く即戦力を育成する。

ヤマハ発動機は世界トップクラスのロボティクス・デジタル人材の派遣や包括的な実習環境の提供によって、浜松市は地域産業の現状共有や地域の魅力の効果的発信によって、静岡県教育委員会はそれらの支援を総括することによって、本事業を行う。

6 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- | | | | | |
|-------------|--|--------|---|---------|
| ・学校設定教科・科目 | <table border="1"><tr><td>開設している</td></tr></table> | 開設している | ・ | 開設していない |
| 開設している | | | | |
| ・教育課程の特例の活用 | <table border="1"><tr><td>活用している</td></tr></table> | 活用している | ・ | 活用していない |
| 活用している | | | | |

7 意思決定機関の体制（マイスター・ハイスクール運営委員会）

氏名	所属・職
池上 重弘	静岡県教育委員会・教育長
日高 祥博	ヤマハ発動機株式会社・代表取締役社長
中野 祐介	浜松市・市長
佐藤 知正	東京大学・名誉教授
寺田 弘隆	静岡県立浜松城北工業高等学校・校長

8 事業推進機関の体制（マイスター・ハイスクール事業推進委員会）

氏名	所属・職
都築 明宏	ヤマハ発動機株式会社（CEO）
南部 秀樹	ヤマハ発動機株式会社（産業実務家教員）
中山 雄二	静岡県教育委員会高校教育課・課長
井島 秀樹	静岡県教育委員会高校教育課・指導監
小林 礼治	静岡県教育委員会高校教育課・教育主幹
梨本 裕晃	静岡県教育委員会高校教育課・主査
中村 昭彦	ヤマハ発動機株式会社 人事戦略部人材マネジメントグループ主管
齋藤 昭雄	ヤマハ発動機株式会社 ロボティクス事業部営業統括部SMT国内営業部国内営業G
松下 直樹	浜松市産業部・次長（産業振興課長）
玉越 賢治	浜松市産業部産業振興課・副主幹
金子 和佳	（公財）浜松地域イノベーション推進機構 事業推進部・技術支援グループ長

源馬 利弘	浜松市産業部産業振興課・主任
寺田 弘隆	静岡県立浜松城北工業高等学校・校長
鈴木 浩	静岡県立浜松城北工業高等学校・副校長
橋本 徳一	静岡県立浜松城北工業高等学校・教頭
鈴木 秀幸	静岡県立浜松城北工業高等学校・事務長

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
マイスター・ハイス クール運営委員会		実施							実施			
マイスター・ハイス クール事業推進委員 会			実施				実施					
マイスター・ハイス クール情報交換会	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施					
自走化のためのワー キンググループ								実施	実施	実施	実施	実施
ヤマハ発動機株式会社												
課題研究部門 やらまいか賞授与									実施			
オンライン海外 インターンシップ					実施						実施	
CEO・産業実務家 教員	派遣	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
CEO 講話				実施							実施	
産業実務家教員 講話											実施	
新社屋見学と自走ワ ーキンググループ												実施
産業用ロボット、ゴ ルフカートの寄贈	実施									実施		
浜松市												
課題研究部門 やらまいか賞授与							実施		実施			

起業プログラム 「浜松みらい塾」										打 合 せ	実 施	
静岡県教育委員会												
課題研究部門 やらまいか賞授与									実 施			
新社屋見学と自走ワ ーキンググループ												実 施
学校設定科目	助 言	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
CEO・産業実務家 教員	任 用	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
高校生海外インター ンシップ（静岡県教 育委員会主催）		募 集		実 施	実 施							
事業費の予算措置											実 施	

（２）実績の説明

ア マイスター・ハイスクール運営委員会の実施

（ア）第１回マイスター・ハイスクール運営委員会

令和５年５月２５日（木）１３時３０分～１５時３０分

- ・令和４年度事業報告、令和５年度事業計画
- ・学校内の組織変更と課題について
- ・成果発表会について

「事業説明」「佐藤知正教授による基調講話」

「マイスター・ハイスクールビジョンの策定」

（イ）第２回マイスター・ハイスクール運営委員会

令和５年１２月２０日（水）１５時４０分～１６時４０分

- ・成果発表会の反省、自走化のために必要なもの

イ マイスター・ハイスクール事業推進委員会の実施

（ア）第１回マイスター・ハイスクール事業推進委員会の実施

令和５年６月２０日（火）１３時００分～１５時００分

- ・各管理期間の活動状況の報告、運営委員会の振り返り
- ・令和５年度の学校行事の進捗状況と年度内の予定
- ・自走化に向けた管理機関相互の調整

（イ）第２回マイスター・ハイスクール事業推進委員会の実施

令和５年１０月１９日（木）１３時００分～１５時００分

- ・事業報告と評価、今後の活動予定、自走化に向けての調整

ウ マイスター・ハイスクール情報交換会の実施

(ア) 第1回マイスター・ハイスクール情報交換会の実施

令和5年4月11日(火)15時30分～16時30分

- ・産業用ロボット贈呈式について、運営委員会での議題について

(イ) 第2回マイスター・ハイスクール情報交換会の実施

令和5年5月25日(木)16時40分～17時10分

- ・自走時のビジョンについて
- ・令和6年度の発表会の会場の選定と予算について

(ウ) 第3回マイスター・ハイスクール情報交換会の実施

令和5年6月20日(火)15時00分～16時45分

- ・自走化における情報共有、伴走者 斉藤様からの情報提供
- ・海外インターンシップの事前学習と浜松市長表敬訪問について

(エ) 第4回マイスター・ハイスクール情報交換会の実施

令和5年8月1日(火)15時00分～16時00分

- ・海外インターンシップの実施について
- ・ロボティクス概論の方針についての共通理解

(オ) 第5回マイスター・ハイスクール情報交換会の実施

令和5年9月14日(木)15時45分～16時45分

- ・ロボティクス実習、海外インターンシップの報告

(カ) 第6回マイスター・ハイスクール情報交換会の実施

令和5年10月19日(木)15時00分～16時45分

- ・自走化に向けた取り組みの提案、意見交換、ビジョンと方針について
- ・次回から情報交換会は「自走のためのワーキンググループ」として実施することについて

エ 自走のためのワーキンググループの実施

(ア) 第1回自走のためのワーキンググループの実施

令和5年11月27日(月)15時00分～16時45分

- ・CEOによるワーキンググループのコンサルティング解説
- ・自走化を目指す領域と目指す姿の具現化

(イ) 第2回自走のためのワーキンググループの実施

令和5年12月25日(月)15時00分～16時45分

- ・学校の魅力化について
- ・中学生及び保護者への魅力の伝達方法について

(ウ) 第3回自走のためのワーキンググループの実施

令和6年1月31日(水)15時30分～16時45分

- ・管理機関の役割とビジョンについて

(エ) 第4回自走のためのワーキンググループの実施

令和6年2月9日(金)15時30分～16時45分

- ・「令和4年度の課題について」
- ・「令和5年度の活動について」
- ・「2、3年目の予算措置への対応について」

(オ) 第5回自走のためのワーキンググループの実施

令和6年3月1日(金)14時00分～17時00分

- ・ヤマハ発動機ロボティクス事業所新棟視察(YRM20・搬入搬出ロボット等)
- ・自走時の「ありがたい姿」、活動表、分担について
- ・情報共有

(カ) 第6回自走のためのワーキンググループの実施

令和6年3月19日(火)16時00分～17時00分

- ・進捗シートの共有
- ・来年度の自走のためのワーキンググループについて

オ 管理機関「ヤマハ発動機株式会社」としての実績

(ア)マイスター・ハイスクール事業成果発表において管理機関名での表彰状授与

電子機械科による「スカラロボットによる植物の育成」班に、やらまいか賞『ヤマハ発動機ロボティクス事業部賞』を授与。

(イ)海外インターンシップの交流先として令和5年8月7日から10日において、ヤマハ発動機株式会社フィリピン工場が受け入れ、協力した。(オンラインを含む)

(ウ)マイスター・ハイスクールCEOを非常勤として学校に39回派遣した。また、産業実務家教員を常勤として学校に派遣した。

(エ)マイスター・ハイスクールCEOによる講話「理系作文のすすめ」を令和6年2月9日に実施し、分かり易く読み易い、伝えたい事が正しく伝わる作文について生徒に問いかけた。

(オ)産業実務家教員による講話「ロボット学習のススメ」と題して、令和6年2月9日に実施し、学校でロボットを学ぶ意義について触れ、マイスター・ハイスクール事業への参加意欲を高めた。

(カ)イノベーションセンター・トライアルオフィス視察受け入れ

浜松城北工業高校は教員全員を収容できる会議室がない、業務のペーパーレス化が進まないという課題を解消するために、CEO発案のもと、同じ課題解決手法を内包するイノベーションセンター・トライアルオフィスの視察を受け入れ、各オフィスのコンセプトと現状、創造性や生産性についての影響について説明した。

(キ)ロボティクス事業所新棟視察受け入れ

第5回自走のためのワーキンググループのメンバーを対象として視察を受け入れた。ロボティクス事業所の最新機器とロボティクス人材との関係性について説明した。

(ク)産業用ロボット3機、ゴルフカートを課題研究用教材として浜松城北工業高校に寄贈した。

(ケ)情報交換会及び自走のためのワーキンググループに参加し、情報共有と令和7年度からの自走について議論した。

(コ)学校設定科目「ロボティクス実習」の生徒17人を受け入れた。(令和5年7月24日～28日までの5日間)

カ 管理期間「浜松市」としての実績

(ア)ロボティクス概論と成果発表会の会場についての打ち合わせ

令和5年7月26日(水)13時00分～15時00分

(イ)マイスター・ハイスクール事業成果発表において管理機関名での表彰状授与

機械科b組と電気科の連携による「マーブルマシ♥スカラロボット」班に、やらまいか賞『浜松市長賞』を授与。

(ウ)浜松みらい塾の講師紹介

マイスター・ハイスクールの目指す起業家精神を持つ人材育成のため、産業部スタートアップ推進課が主催する次世代起業家育成事業(浜松みらい塾)を指定校に紹介し、講師を紹介した。また、生徒に参加を呼びかけるビデオレターを制作した。浜松みらい塾を令和

6 年 2 月 9 日に下記のとおり実施し、現場に立ち会い運営をサポートした。

- ・ロボスタディ株式会社 機械科 1 年 a 組、電子機械科 1 年 a 組 (77 人)
講義内容 コミュニケーションロボット開発:夢を持ち続けることの大切さ
- ・藤本工業株式会社 電子科 1 年 a 組 (32 人)
講義内容 バリ取り作業について、職人技の自動化について
- ・(株)日本設計工業 電気科 1 年 a 組 (34 人)
講義内容 協働ロボットに命を吹きこむプログラミング

(エ)海外インターンシップ市長表敬訪問を令和 5 年 8 月 2 日に受け入れ

(オ)情報交換会及び自走のためのワーキンググループに参加し、情報共有と令和 7 年度からの自走について議論した。

(カ)ロボティクス事業所新棟視察

第 5 回自走のためのワーキンググループのメンバーとしてロボティクスの最新技術を視察すると共に自走化について情報交換を行った。

(キ)令和 6 年度事業費の予算措置

計画していた令和 6 年度事業を実施するための予算を確保した。(浜松市決議日 3/22 のため要確認)

キ 管理期間「静岡県教育委員会」としての実績

(ア)マイスター・ハイスクール事業成果発表において管理機関名での表彰状授与

機械科 a 組と電子科 b 組のコラボによる「点字くん」班に、やらまいか賞『静岡県教育委員会教育長賞』を授与。

(イ)浜松みらい塾の視察

令和 6 年 2 月 9 日に実施された浜松みらい塾を視察し、マイスター・ハイスクール事業の進捗状況の把握と管理を行った。

(ウ)自走化に向けた学校と教育委員会関係者の打ち合わせを令和 5 年 9 月 7 日に実施した。

(エ)情報交換会及び自走のためのワーキンググループに参加し、情報共有と令和 7 年度からの自走について議論した。

(オ)マイスター・ハイスクール校内委員会への参加

マイスター・ハイスクール校内委員会に参加し、県教育委員会として適切な助言と支援をした。

(カ)第 5 回自走のためのワーキンググループのメンバーとしてロボティクスの最新技術を視察すると共に自走化について情報交換を行った。

(キ)マイスター・ハイスクール CEO 及び産業実務家教員の任用等

マイスター・ハイスクール CEO を非常勤として任用し、年間 39 回の勤務を命じた。産業実務家教員を常勤として前年度から継続して任用した。産業実務家教員には実習服を貸与した。

(ク)令和 5 年度高校生海外インターンシップ(静岡県教育委員会主催)に生徒 2 人を受入れた。

(ケ)令和 6 年度事業費の予算措置

計画していた令和 6 年度事業を実施するための予算を確保した。

(1) 実施日程

[illegible]

特別講話												
事業費の予算措置											実施	

(2) 実績の説明

ア マイスター・ハイスクール校内委員会の実施

毎週金曜日に定例の校内委員会を実施した。業務分担ごとに4人のリーダー役の教員と4科をまとめる代表科長が出席し、マイスター・ハイスクールビジョン実現のための運営を行った。

イ マイスター・ハイスクール事業成果発表会

本事業の成果を広報し、本校生徒の意欲向上と地域に活動を広げるためにアクトシティ大ホールにおいて令和5年12月20日に本校独自の成果発表会を実施した。管理機関および企業からの来賓は70人と予想より多かった。「共感と共有」をテーマにした発表会は運営委員会からは高く評価された。

ウ 学校設定科目「ロボティクス実習」の実施

2年次の夏季休暇中を利用することで全ての学科の生徒が希望して履修できるように工夫した。学校と受け入れ側企業であるヤマハ発動機ロボティクス事業部の全面的な協力のもと、安全教育から最新技術に振れる体験までを盛り込み、最終日にはロボティクス実習の体験の成果を発表した。従来の「仕事を体験する」という趣旨のインターンシップとは明確な違いを示し、体験した生徒の評判もよかった。

エ 4科(機械・電子機械・電気・電子科)が連携するものづくり

昨年度に引き続き、はままつフルーツパーク時之栖が主催するイルミュージアムに出展した。電子機械科がアイデアを考え、機械科が機械的なボディを作り、電気科が配線を、電子科が制御のためのプログラミングを行うことで4科連携を実践することができた。

オ ロボットアイデア甲子園への参加

一般社団法人 日本ロボット工業会 FA・ロボットシステムインテグレータ協会が主催するロボットアイデア甲子園は、産業用ロボットを使用したシステムを見学し、産業用ロボットに対する知識を深めるとともに、新たな産業用ロボットを使用したアプリケーションのアイデアを競うものであり、本事業の運営委員の一人でもある東京大学名誉教授 佐藤知正氏が審査委員長を務めている。静岡県西部地区の見学会は株式会社 日本設計工業技術ターミナルで実施され、本校からは33人の生徒が参加した。このうち3人が静岡県西部大会にノミネートされ、1人が準優秀賞、2人が敢闘賞を受賞した。

カ 産業見学の実施 S2a E2a

工業用ロボットを扱う企業を見学することでロボティクスに対する興味と関心を高めた。見学先はヤマハ発動機 ロボティクス事業部・袋井南製作所、ASTI 株式会社浜松工場、コンチネンタルオートモーティブ、エンシュウ株式会社、浜松ホトニクス豊岡製作所、(株)エンシュウであり、参加した生徒は281人である。

キ ISO(9001, 14001, 27001)研修の実施

令和5年度は実施しなかった。

ク 起業プログラム「浜松みらい塾」の実施

浜松市と連携し、マイスター・ハイスクールの目指す起業家精神を持つ人材育成のため

に「浜松みらい塾」を実施した。詳細は「9 管理機関の取組・支援実績(2)カ(ウ)」のとおり。

ケ オンライン海外インターンシップの実施

令和5年9月に生徒を募集し、電子科3年生1人、機械科2年生2人、電子機械科2年生1人、電気科2年生1人、電子機械科1年生1人、電子科1年生4人、計10人が参加した。内容はヤマハ発動機フィリピン工場と学校をテレビ会議システムで接続し、英語による自己紹介や工場見学、質疑応答を実施した。フィリピン側の参加者はヤマハ発動機フィリピン工場駐在員と現地スタッフである。

コ 海外インターンシップ

海外インターンシップを令和5年8月7日から10日(3泊4日)で実施した。参加者は1年生1人、2年生3人、3年生2人の計6人である。ヤマハ発動機株式会社 Yamaha Motor Philippines, Inc. (YMPH)の全面的な協力のもと実現できた。体験内容は日本式のロボット化されたものづくり現場を実体験するものであり、ヤマハ発動機フィリピン工場内での英語によるオープニングセレモニーから職場体験、ディーラー訪問の中で生徒はグローバルな世界の中の日本の立ち位置を実感し、12月の成果発表会で自分の言葉として全校生徒に伝えることができた。

サ CEO 及び産業実務家教員による特別講話

マイスター・ハイスクールCEOによる講話「理系作文のすすめ」と産業実務家教員による講話「ロボット学習のススメ」を令和6年2月9日に実施した。教員とは違う立場と新鮮な切り口の講話は生徒にとって興味深く、楽しく聞くことができた。

シ 令和6年度事業費の予算措置（浜松市の記述方法は確認中）

令和6年度のマイスター・ハイスクール事業の文部科学省の予算措置も引き続き減額されており、マイスター・ハイスクール事業計画の見直しが必要となったが、静岡県教員委員会及び浜松市の予算措置によって、当初の計画通り実施できることとなった。この予算措置により、より広い活動範囲と、活動を周知、還元していく道筋を作ることができた。

ス ISO(9001, 14001, 27001)研修は未実施

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

本事業で定めた定量的目標に対する評価結果は、次のとおりである。

項目	目標値	9月	12月	増減
技能検定の合格者数	100人以上	83人 (前期)	3月発表のため発表後に記入	R4年度は24人であったため少なくとも59人は増加した
ロボット産業に係る学校設定教科・科目を履修した生徒※	100人以上	119人		
ロボット関連企業に就職する生徒	100人以上	138人		139人
「進路を意識した具体的な取組をしている」と答えた生徒	80%以上	84%	81%	R4年度より9月で+3%、12月は変化なし
「授業に、自分の考えを表現す	90%以上	90%	89%	R4年度より9

る場面や対話する場面が取り入れられていて、理解を深めることができる」と答えた生徒				月で-1%、12月は-2%
授業アンケートで「授業が分かる」と答えた生徒	80%以上	87%	87%	R 4 年度より 9 月は+10%、12 月は+3%

※対象とした科目はロボティクス実習、課題研究(ロボティクスをテーマにした生徒のみ)の合計数

本事業で定めた定性的目標に対する評価結果は、次のとおりである。

(1) ロボティクス・デジタル人材育成のための教育課程による専門性の向上

学校設定科目「ロボティクス実習」においては産業用ロボットの安全教育、品質保証、ロボットビジョンの操作とユニットの分解組立、動作精度の向上法を学び、生徒の専門性が向上した。学校設定科目「ロボティクス概論」は申請中のため評価は来年度とする。

(2) ロボット産業に係る学校設定教科・科目の指導書の作成

学校設定科目「ロボティクス実習」の実習内容をヤマハ発動機ロボティクス事業部と共同で開発した。指導書は令和6年度の完成を目指している。

(3) 地元企業等と連携した本校生徒向けの起業プログラムの作成

浜松市より紹介された起業プログラム「浜松みらい塾」を3回実施し、合計143人の1年生が参加した。浜松の地で業を起し、時代の荒波を乗り越えた講師陣の力強いメッセージは、生徒に会社を運営する醍醐味と夢を持ち続ける大切さ、時代の変化に合わせて事業を進めていく柔軟さを学ぶことができた。また、若い講師においては企業で働くことの意味や、等身大の職業感が多くの生徒から共感を得た。積極的に質疑が行われたことは、浜松みらい塾が成功した証となるものである。

(4) 海外インターンシップ（オンラインを含む）の実施（海外展開している企業における、日本式のロボット化されたものづくり現場を実体験する学習）

令和5年度は令和4年度にオンラインによる海外インターンシップに参加した生徒が実際にヤマハ発動機フィリピン工場にインターンシップに赴くというステップを踏んだ主体的で有意義な学習と体験をすることができた。参加した生徒は英語の必要性、フィリピンの急速な発展と課題、海外工場と日本の工場に違いがなかったことを感じ取り、発表会で前項生徒に伝えることができた。これらの実績から海外インターンシップの目的は達成したものといえる。

(5) 各科の連携及び企業との連携の促進（ロボットに関する創造や産業に焦点化）

はままつフルーツパーク時之栖が主催する自作イルミネーションの祭典に各科が連携して制作したイルミネーションを出展し、4位を受賞した。昨年度の連携の経験のある教員を中心に生徒・教員共に連携に主体的に取り組んだ。各科連携と企業との連携は令和6年度以降の課題としたい。

(6) マイスター・ハイスクールに係る報告書の作成や発表を通じた事業内容の周知と県内実業系高校への波及（「ロボット＝統合の産物」であり、本事業の取組がロボティクス・デジタル人材の育成に寄与することを広報する。）

・令和4年度は成果報告書(1年次)を作成して県下の教育機関と関連企業に200部を配布すると共に学校ホームページにも掲載した。令和5年度も同様に配布、掲載予定である。これらに加えて学校PRパンフレット「高卒就職のすすめ」を作成して中学3年生を対象と

した合同説明会や学校紹介で 500 部を配布した。学校 P R ビデオも制作中であり、学校ホームページに掲載予定である。

・令和 5 年 12 月にはアクトシティ浜松大ホールにおいて全校生と来賓・工業高校の教員関係企業等から 70 人が参加したマイスター・ハイスクール事業成果発表会を行い、マイスター・ハイスクールの事業を生徒に広報した。また、この発表会は新聞にも掲載された。

これらのことから本マイスター・ハイスクール事業の周知と県内への波及効果はあったものと捉えている。

(7) 全職員が参加する「マイスター・ハイスクール研修会」の実施による共通意識の醸成

校長より 4 月、6 月の職員会議において全職員体制で取り組むことが周知された。また、5 月には全職員が参加する研修会において令和 5 年度の 3 つのチーム(入学広報、城北活性、企業参画チーム)について説明し、全職員に主体的に参加するチームを選んでもらうことで共通理解を図った。

1 2 次年度以降の課題及び改善点

- (1) 渡航費の高騰によって海外インターンシップの予算が本マイスター・ハイスクール事業全体の予算を圧迫している。海外インターンシップの目的の見直しや、生徒の負担額や渡航先の再選定など抜本的な改善が求められている。
- (2) 本事業の成功体験を教職員に伝える必要がある。また、小さな成功例を集めてデータベース化して成果を共有・再利用すべきである。このことが教員の負担感を減らし、持続可能な取組につながるはずである。

【担当者】

担当課	静岡県教育委員会 高校教育課	T E L	054-221-3145
氏 名	小林 礼治	F A X	054-251-8685
職 名	教育主幹	e-mail	reiji1_kobayashi@pref.shizuoka.lg.jp